

至りしために施行を要する改良工事は將來益々増加するものと思はるゝ。他面列車密度の増加、運轉速度の昂上は常に線路の破壊度を大ならしむるのみならず、之を保守修繕するに要する時間を短縮する結果となるため今や之が健實なる維持は軌道の構造を改善して其の強度を増加するの外なきに至つた。長軌條の使用、碎石道床の奨勵の如きは實に之の目的を達成せんとする改善の一端で、之の方面にも幾多なすべき仕事が残つて居る。

以上述べ來れるが如く我國の土木界には實になすべき事業が極めて多い。而て國富之に伴はざる恨多きが故に我々は我國独自の技術に更生して安値にして堅牢なる材料と工法を發見工夫して可及的に之等の必要なる施設を完成すべく努力せねばならぬと思ふ。此際工事畫報の如き堅實なる機關が益々隆盛を致し斯界を指導する事は特に意義ある事と思ふ。

聊か所感を述べて祝辭とする。(了)

無名戰士の生活を充實させよ

東大工學部教授 山 口 昇
工 學 博 士

(一) 小生卒業後四年間某省土木工事に従事致したる後、自己の専門が甚だしく工事に遠ざかりし爲め、この問題に御答する資格あるやを疑ふものに候が、ほのかに承るところにては、小生等の若かりし日には、著しく設計偏重の思想有之候へ共、近來は施工も同様に専門的研究必要あり、若き有能の士が獨創の見をもつて従事すべき仕事なることを、充分に認識せられつゝある趣、斯界の爲めに大慶と存じ候。將來に對しても益々この氣風

の助長を願ひ度きものにて候。

(二) 小生共の印象にある工事は内外共可成多く有之候も、小生としては斯る表面的のことよりも、寧ろ僻遠の地にあつて世上に出でず、しかも孜孜として日夜工事に従事せられるつゝある所謂無名戰士(?)の生活をして更に充實せしめることは、土木界の爲め極めて重大なることと愚考仕候、幸ひ貴誌の如きは斯くの如き方面の御努力を致されば斯界を益する益々大なるものあらんと存じ候。

地震と不景氣に感謝する

東 京 城 生

關東大地震がなかつたならば、はたして我國の耐震構造に關する學問と施工法が、今日の如き發達を見たであらうか?

工事畫報が100號を記念する爲に「工事界十年の回顧號」を特輯すると云ふ知らせを見たときに、私はふと斯う考へた。何と云つてもこの十年間に著しい進歩をとげたのは耐震構造の學と術を以て最とせればなるまい。この結果を招く最大の動因となつた、彼の大地震に對して大いに感謝してもよろしいではなからうか。今日土木工事にせよ建築工事にせよ、必ず耐震と云ふ事に重きを置いて

設計施工される様になつたのは、關東大地震の賜だと云つても過言ではないからである。

また、つい十年先までは大學出の若い工學士諸君は現場の施工を輕蔑して、何でも設計でなければならぬと云ふ風に、設計偏重の傾きがあつたが、最近では大學出の人々もどンドン現場に出て實地工事の第一線に活躍する様になつた。斯うして頭の好い能きのある人々が直接工事に携る事になつたのは、工事界の將來に大きな光明を與へるもので、まことに喜ばしき傾向である。之は現場の施工が、設計同様、否寧ろより以上に大切である事が認識された結果であらうが、若し不景氣による就職難が幾らかでもその因を爲してあるとすれば、不景氣に對しても亦感謝したい氣持ちになるのである。